

「A 家族・家庭生活」

- (1) 自分の成長と家族・家庭生活  
ガイダンス、家族・家庭の基本的な機能、生活の営みに係る見方・考え方
- (2) 幼児の生活と家族

○幼稚園、保育所、認定こども園などの幼児の観察や幼児との触れ合いができるよう留意する。

- (3) 家族・家庭や地域との関わり  
高齢者など地域の人々との協働、高齢者との関わり方（高齢者の身体の特徴、高齢者の介護の基礎に関する体験的な活動）【新設】

【新設の内容】

- 介護については、家庭や地域で高齢者と関わり協働するために必要な学習内容として、立ち上がりや歩行などの介助の方法について扱い、理解できるようにする。介護の基礎に関する体験的な活動（生徒がペアを組み、立ち上がりや歩行などの介助を体験し話し合う活動や専門家から介助の仕方について話を聞く活動等）を通して、実感を伴って理解できるように配慮する。※福祉施設を訪問して体験するのではない。
- ④（3）家族や地域の人々との関わり ④は小学校の学習内容  
幼児又は低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々との関わり【新設】
- ④（4）家族・家庭生活についての課題と実践【新設】

- (4) 家族・家庭生活についての課題と実践  
家族、幼児の生活又は地域の生活の中から問題を見いだし、生徒の興味・関心等に応じて「B衣食住の生活」や「C消費生活・環境」の内容と関連させて課題を設定

「B 衣食住の生活」

日本の伝統的な生活についても扱い、生活文化を継承する大切さに気付くことができるよう配慮

- (1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴
- (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事
- (3) 日常食の調理と地域の食文化  
加熱調理（煮る、焼く、蒸す等）、地域の食材を用いた和食の調理、日常の1食分の調理の工夫

- 魚、肉、野菜などを用いた題材を設定し、材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理ができるようにする。
- 材料に適した加熱調理の仕方については、小学校で学習したゆでる、いためる調理に加え、煮る、焼く、蒸す等を扱うこととする。
- 蒸すについては、ゆでる、いためる調理などと比較することにより、水蒸気で加熱する蒸し調理の特徴を理解できるようにする。  
※原理・原則を扱うため、学校の調理では電子レンジを使用しない。
- 野菜やいも類などを蒸したり、小麦粉を使った菓子を調理したりするなど、基礎的な調理を扱うようにする。  
※温度調節が必要な茶碗蒸しやプリンを実習題材として扱わない。
- ④（2）調理の基礎  
ゆでる材料として青菜とじゃがいもが題材指定になっている。
- 地域の食材を用いた和食の調理については、だしと地域又は季節の食材を用いた煮物又は汁物を取り上げ、適切に調理ができるようにする。

- (4) 衣服の選択と手入れ（日本の伝統的な衣服である和服）

○和服は日本の伝統的な衣服であり、冠婚葬祭や儀式等で着用することや、地域の祭りなどで浴衣を着用することなどについて触れるようにする。

- (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作  
衣服等の再利用の方法

【現行学習指導要領からの変更点】

- 衣生活や住生活を豊かにするための工夫（現行）から、幼児の生活を豊かにするための物を製作したり、環境に配慮した生活を工夫するための物を製作したりすることなどが考えられる。
- 小学校で学習した手縫いやミシン縫いなどの基礎的・基本的な知識及び技能を発展させ、効果的に活用して製作できるよう配慮する。
- 生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫する。
- 小・中学校の知識及び技能の系統性  
④（5）ア(ア)(イ) 製作に必要な材料や手順、目的に応じた縫い方  
↓  
ゆとりや縫いしろの必要性を理解するために、日常生活で使用する物を入れるための袋などが題材指定になっている。  
⑤（5）ア 製作する物に適した材料や縫い方
- 衣服等を別の用途に作り直したり、デザインを変えたりするなど、再利用の方法について触れるようにする。（資源や環境への配慮）
- 製作品の中に補修の技術（まつり縫い）を取り入れなくてよい。
- 現行の学習指導要領では小さな作品もあったが、ミシンで大きな作品を製作する。

- (6) 住居の機能と安全な住まい方  
家族の生活と住空間との関わり

【現行学習指導要領からの変更点】

- ④（6）快適な住まい方 ア(ア)住まいの主な働き【新設】  
結露やカビ・ダニ、音については、小学校へ
- 食事の役割、衣服の機能、住居の機能を取り上げる際には、「A家族・家庭生活」の（1）の家族・家庭の基本的な機能と関連させ、健康・快適・安全、生活文化の継承などの視点から考えることが大切であることに気付くようにする。

自然災害に備えた住空間の整え方

- 自然災害については、地域の実態に応じて過去の災害の例を取り上げることなどが考えられる。
- 自然災害への備えについては、各家庭における危険箇所を確認したり、災害時の行動マニュアルを作成したりする活動などが考えられる。

- (7) 衣食住の生活についての課題と実践  
食生活、衣生活、住生活の中から問題を見いだし、生徒の興味・関心等に応じて「A家族・家庭生活」や「C消費生活・環境」の内容と関連させて課題を設定

「C 消費生活・環境」

- (1) 金銭の管理と購入  
計画的な金銭管理の必要性、売買契約の仕組み【新設】  
消費者被害の背景とその対応、クレジットなどの三者間契約

【新設の内容】

- 購入方法や支払い方法については、小学校における現金による店舗販売に関する学習を踏まえ、中学生の身近な消費行動と関連を図って扱うよう配慮する。
- 売買契約の仕組みについては、消費者被害と関連させて扱うよう配慮する。
- ④（1）物や金銭の使い方と買物  
買物の仕組みや消費者の役割（売買契約の基礎）【新設】

- (2) 消費者の権利と責任
- (3) 消費生活・環境についての課題と実践【新設】  
自分や家族の消費生活の中から問題を見いだし、生徒の興味・関心等に応じて「A家族・家庭生活」や「B衣食住の生活」の内容と関連させて課題を設定

◇内容の取扱いに「各内容については、生活の科学的な理解を深めるための実践的・体験的な活動を充実すること」を示している。例えば、内容「A家族・家庭生活」では、幼児の心身の発達や遊び、高齢者の身体の特徴に関する調査や観察・実習などを工夫したり、内容「C消費生活・環境」では、消費者被害や、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響などに関する調査や実験などを工夫したりすることが考えられる。